

令和3年度新規事業

一人暮らし体験事業

「おためしハウス205」

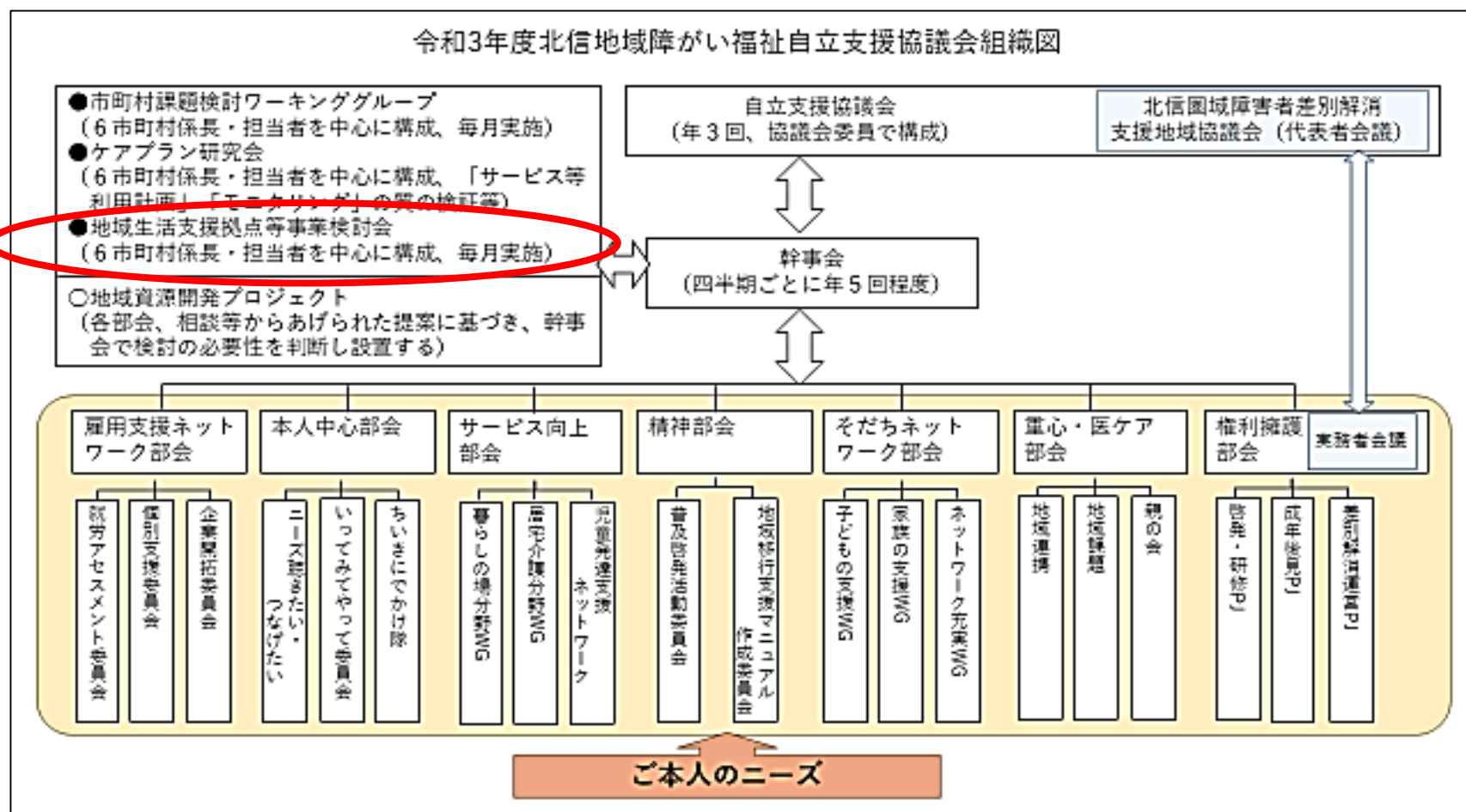
実施状況報告



地域生活支援事業拠点等検討会

1、一人暮らし体験事業開始の経過

「一人暮らし体験事業」の実施について、地域生活支援拠点等事業検討会にて協議し、R3年4月より事業を開始しました。地域生活支援拠点等事業検討会は、地域生活支援拠点等事業の整備について協議を行う場です。



1、一人暮らし体験事業開始の経過

【地域生活支援拠点等事業とは…】

障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築していくための事業。

【地域生活支援拠点等事業の5つの柱】

- ①相談…地域移行、親元からの自立等のための相談機能の充実等
- ②緊急時の受入れ・対応…緊急時の受入れ体制の整備や対応力の向上等
- ③体験の場・機会の確保…障がい福祉サービスや一人暮らしの体験の機会・場の提供等
- ④専門性…専門的な支援が行える人材や体制の確保、人材養成等
- ⑤地域の体制づくり…コーディネーターの配置等による地域の体制整備等

1、一人暮らし体験事業開始の経過

地域生活支援拠点等事業検討会では、5つの柱にそって北信圏域の実情を見ながら整備を進めています。

●H29年度～ 地域あんしんコーディネーター2名配置（柱①・②・⑤）、
空床2床確保（柱②）、
専門研修会の実施（柱④） 等取り組んできた。

●R2年度…柱③「体験の場・機会の確保」について特に検討を実施。

“一人暮らししてみたい。だけどいきなりは不安。気軽に体験できる場所がほしい。”

そういった「一人暮らし体験」の場のニーズについて相談支援専門員等に調査。

すぐにでも利用したい18名、将来的に利用したい36名、合計54名のニーズを把握。

「一人暮らし体験」の事業化に向けて検討を開始し、R3年4月より開始することに。

事業の通称を「おためしハウス205」と命名。

2、一人暮らし体験事業「おためしハウス205」の内容

①目的

入所施設や病院から地域移行する際、また家族との暮らしからの自立を考える時等に、一人暮らしの体験ができる場を提供することで、今後の生活の検討が行えるようにする。

②対象者（以下のすべての項目に該当する方）

- ・ 18歳以上で、障がい者手帳を所持されている方、又は自立支援医療を受給されている方。
- ・ 中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村に住所のある方。
- ・ 現在、一人暮らしをしていない方。
- ・ 将来自立生活を目指している、将来地域で生活を始めようとしている、家族や支援者のいない暮らしに挑戦したい等の目的を持っている方。
- ・ 宿泊体験のできる健康状態の方。（風邪症状等のない方）

2、一人暮らし体験事業「おためしハウス205」の内容

③利用の流れ

- (1)相談…北信圏域障害者総合相談支援センター（以下、支援センター）に相談
- (2)見学…宿泊場所を確認する
- (3)事前面談・会議…目的・日程等を決め、体験の計画を立てる
- (4)申込み…「一人暮らし体験事業」の利用申請をする（支援センターで受付）
- (5)体験実施…計画に沿って体験を行う
- (6)振り返り会議…体験の振り返りと今後について相談する

④利用に関する決まり

- ・利用期間は1回につき14日を上限とする。
- ・利用料金は、家賃、水光熱費等として1日500円。食費は別途自己負担。
- ・相談支援はあるが、家事援助はなし。ご自分で過ごす経験をして頂く。

3、「おためしハウス205」の様子・利用状況

建物は、飯山市にあるアパート
「エムハイツ」の205号室を利用。



1 Kのアパート。家具・家電あり。



3、「おためしハウス205」の様子・利用状況

【今年4月～9月の利用実績】

見学者…13名

利用者…7名

利用日数…日帰り～14日間　合計45日

☆日帰りから始めて、次は1泊、その次は2泊、と少しずつ利用を増やしている方。

最初から連泊で体験してみる方。利用の仕方は人それぞれです。

その方の様子やご希望に合わせて相談して決め、実施しています。

☆緊急時の連絡先も確認し、利用中に困った事等があれば相談できる体制を確保し、安心して体験して頂けるようにしています。

3、「おためしハウス205」の様子・利用状況

【利用者の声】

- ・自分で出来る事や、出来ないことが見えてきた。
- ・ひとり暮らしの夢に向かって、何から準備すればよいか見えてきた。
- ・自分のペースで過ごせた。家族から離れ開放感があった。一人暮らしが実現できるように頑張っていきたい。
- ・普段家でやっていることは、一人になってもできることがわかった。普段から家族に頼りすぎず、いろいろやっておきたい。
- ・もしひとり暮らしになったら、お金のやり繰りが困ってしまうと改めて思った。
- ・家事をやる事での疲れや、1人でいる時の気持ちの波・変化が感じられた。
- ・少し自信が持てたので、いざという時（母が居なくなる時等）も、一人でも大丈夫と思えるかもしれない。



4、今後に向けて

今後も、一人暮らし体験事業の実施状況を地域生活支援拠点等事業検討会にて確認しながら、見えてきた課題について検討をしていきたいと思います。

また、地域生活支援拠点等事業の5つの柱それぞれについて機能の充実を図っていきたいと思います。

北信圏域における地域生活支援拠点等事業の理念（目指す姿）は、

**「その人の意思に基づき、暮らしたい場所で暮らしたい人と、
その人らしく、生き活きと、安心して暮らせる地域づくり」**です。

今後も理念の実現に向け、皆様のご意見等いただきながら検討し、整備を進めていきたいと思います。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。